



# 増え続ける認知症 地域で見守り、早期に相談

☎高齢介護課 ☎70・5633



オレンジ色のブレスレット「オレンジリング」は、認知症の人とその家族を支援するサポーターの証しです。

## 本人・家族を応援しませんか 認知症サポーター養成講座

市では、認知症サポーター養成講座を20年度から開催しています。認知症を正しく理解し、本人や家族を見守る応援者を養成する講座です。受講した方には、修了証としてオレンジリングを渡しています。今年度は10月8日(木)13時30分～15時、市役所315会議室で開催します。定員50人(先着順)で、申し込みは不要です。

### ■認知症とは

認知症とは、いろいろな原因で脳の細胞が損傷を受けたり、働きが悪くなったことで、認知機能が低下し、さまざまな面で生活に支障を来す状態をいいます。高齢者の病気という印象がありますが、65歳未満でも発症することがあり、働き盛りや子育て中の人が発症すると、生活面や経済面に多大な影響を及ぼすことが考えられます。

### ■早期に相談を

認知症の心配があるときや、家族・近所で気になる人がいるときなど、まずは相談しましょう。早期に診断・治療することで、今後の生活の準備ができるほか、アルツハイマー型認知症の場合は薬で進行を遅らせるなど、対処できます。市内には、地域の高齢者の生活を総合的に支える拠点として地域包括支援センターがあり、日常のさまざまな相談を受け、介護・福

超高齢社会に突入した日本。それは本市も例外ではありません。高齢者を、多くの人が生きがいを持って過ごしています。その一方で、高齢期の不安の一つとなっているのが認知症です。今後も高齢者人口の増加と寿命の延伸などで、認知症患者の増加が予想されています。高齢者やその家族が住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、私たち一人一人が認知症への理解を深め、地域全体で見守り、支えていくことが大切です。

### ■予防するには

生活習慣病を予防することは、認知症の予防にもつながるといわれています。食生活に気を付けることや適度な運動、地域活動への参加などが効果的とされています。

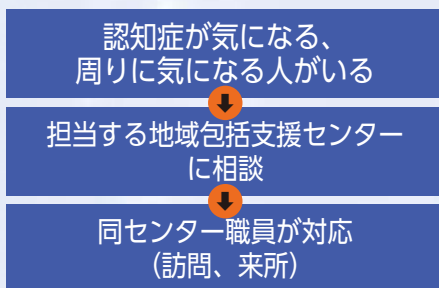
### ■気持ち・尊厳に配慮を

今後、認知症の人が増え、日常生活で接する機会が増えることも予想されます。本人の気持ちを理解するとともに尊厳に配慮し、できることを生かしながら手伝えることが大切です。

### 市内の地域包括支援センター

名称 (所在地、☎)	担当地域
地域包括支援センター杜の郷 (寺尾南1-5-31、76・8866)	【北部圏域】 蓼川、大上、寺尾北、寺尾中、寺尾本町、寺尾南、寺尾釜田、寺尾西、寺尾台
道志会地域包括支援センター (早川城山2-11-3、70・1166)	【西部圏域】 小園、小園南、早川、早川城山、綾西、吉岡、吉岡東
地域包括支援センター泉正園 (上土棚南1-11-20、70・1888)	【中・南部圏域】 深谷、深谷南、深谷中、深谷上、落合北、落合南、上土棚北、上土棚中、上土棚南、本蓼川

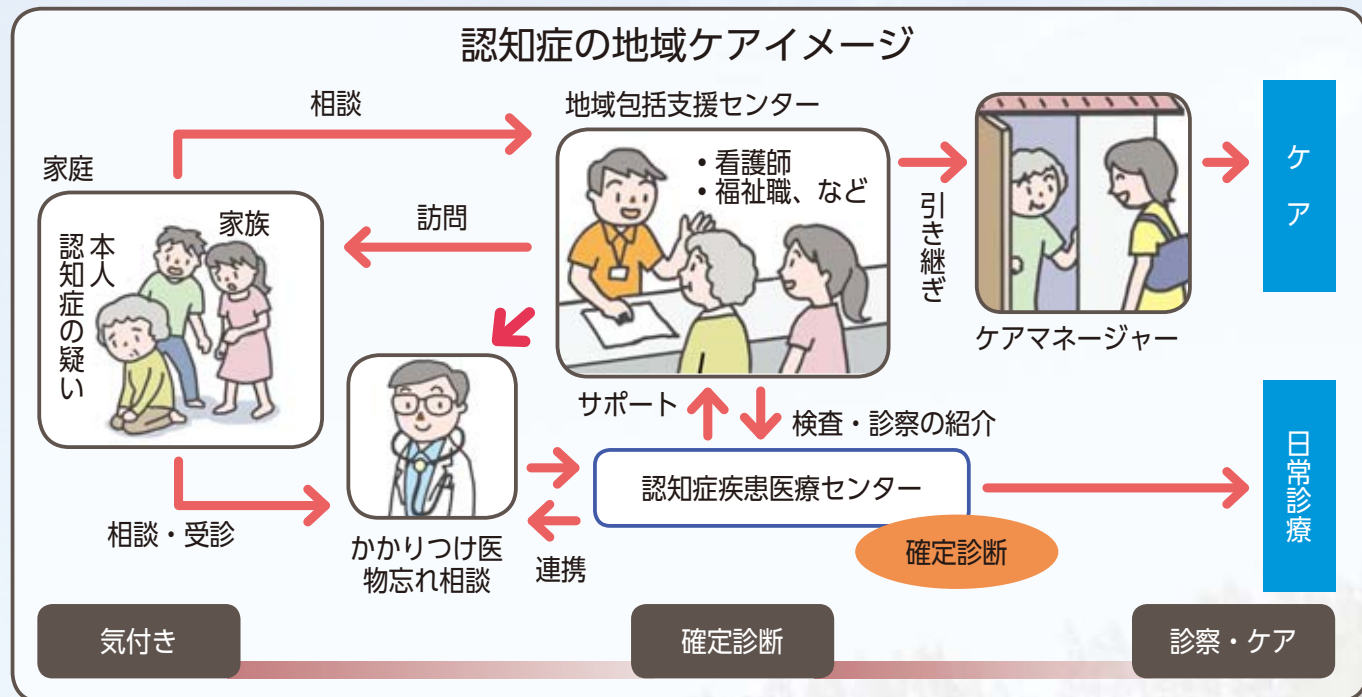
### 相談の流れ



### 自己診断項目

- ・周りの人から「いつも同じことを聞く」と言われる
  - ・今日が何月何日か分からないときがある
  - ・電話番号を調べて、電話をかけることができない
- ⇒気になったときは相談しましょう。

### 認知症の地域ケアイメージ



### 10年後には 市内で約2400人 認知症高齢者の推計

65歳以上の高齢者のうち認知症の人は、国内では24年度に462万人(65歳以上の7人に1人程度)だったものが、37年度には約700万人(5人に1人程度)になると推計されています。本市では、24年度に1302人(15人に1人程度)でしたが、過去の伸び率を基にした推計では27年度に1660人、37年度には2417人(10人に1人程度)まで膨らむと予測しています。